

令和3年度

活動記録



読み語り活動

幸海小学校地域学校共働本部

1 はじめに

幸海小学校地域学校共働本部の活動は、今年度で5年目を迎えた。今年度も、学校の教育活動を支援するとともに、その教育活動を行う教師の手助けになるように計画を立てていきたい。昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、5年生の田植え体験学習を教師が行ったり、春のふるさと探しや観劇会が中止になったりした。今年度も、様々な影響が考えられるが、その都度、様子を見ながら活動していきたい。

活動内容では、昨年度から「登下校の見守り」を始めた。ボランティアの方の献身的な努力で、年間を通して行うことができた。今年度も続けていきたい。また、今年度新たに、「読み語り」を地域学校共働本部の活動に位置づけた。今まで、自主グループの活動として、長年行ってきたが、学校ボランティアの一環としてとらえることにした。また、教材作成、清掃補助、校内整備等、ちょっとしたことをお願いする「ちょボラ」も新たに加えた。実際の活動状況においては、「春のふるさと探し」は緊急事態宣言が発令される前であったため、実施することができた。けれど、5月に予定をしていた「読み語り活動」と「図書館整備活動」は中止した。また、「観劇会」は、今年度も中止することにした。

児童数が年々減少していく中ではあるが、ボランティア活動を多くの保護者に申し込んでいただいた。特に、年間通して行う「登下校見守り活動」や「図書館整備」、短期集中の「背景画制作」や「ちょボラ」に参加してくださるボランティアの方がいることは、心強く感じている。また、保護者以外でも、地域の方による読み語りや栽培学習、秋のふるさとウォーク等で、講師の方に協力していただけるのも、ありがたいことである。



「春のふるさと探し」皆福寺訪問

地域学校共働本部が中心になって行った活動は、一昨年度からホームページに掲載し、地域の方に公開している。今年度も、できる限りホームページに載せ、地域の方に発信していきたいと考えている。

2 構成メンバー(6名)

- | | | |
|---------|-------|--------------|
| (1) 部長 | 岡田 元則 | (学校アドバイザー) |
| (2) 副部長 | 梶本太四郎 | (学校アドバイザー) |
| (3) 委員 | 佐藤 幸男 | (学校アドバイザー) |
| (4) 委員 | 吉田亜理佐 | (学校アドバイザー) |
| (5) 委員 | 岩瀬 俊治 | (地域コーディネーター) |
| (6) 他1名 | | |

3 本年度の活動（予定）

地域学校共働本部が中心となり、ボランティアや地域講師等を依頼する活動

番号	活動名	日時(予定)	活動場所	活動の主な内容	協力者
1	登下校見守り隊 (別紙「見守り隊 の募集」参照)	5月30日(金) ～ 3月24日(木)	幸海地区 穂積地区	登下校につき添っ て、児童の安全を守 る	7名
2	読み語り	月1回 主に火曜日 「読み語りの計 画」による 8:30～ 8:45	各学級	絵本等の読み聞かせ	8名
3	春のふるさと探し (縦割り班による 学区探索)	4月28日(水) 8:50～ 14:00 予備日 4月30日(金)	皆福寺 津島神社(川) 幸穂台グランド	引率補助 縦割り班と共に歩く (弁当持参)	3名
4	図書館整備	毎月第2木曜日 13:30～ 15:00 ※第1回は7月 8日(木)	図書館	図書館司書と共に、 掲示物の作成や張替 え等を行う	4名
5	田植え体験学習 (5年生)	5月25日(火) 9:00～ 10:30	ネイチャーパー クの田	田植え体験学習の補 助	2名
6	栽培学習(3年)	9月7日(火) 時刻は未定	学校近くの畑	大根の種まき補助	1名
7	稲刈り体験学習 (5年)	9月下旬 詳細は未定	ネイチャーパー クの田	稲刈り体験学習の補 助	1名
8	脱穀体験学習 (5年)	9月下旬 詳細は未定	児童昇降口南のス ペース(ピロティ)	脱穀体験学習の補助	2名
9	背景画制作(デッ サンと色塗り)	10月8日(金)～ 10月29日(金) で随時	ワークスペース 少人数教室	しゃちのみフェスタ 劇の背景画制作	5名

10	秋のふるさとウォーク (学年ごとに実施)	11月か12月ごろ予定 詳細は未定	各学年の活動場所 詳細は未定	主に引率補助 活動場所での説明等 (講師)も可	13名
11	しいたけ菌打ち体験学習(4年生)	2月4日(金) 10:00～ 12:00 〈予備日〉 2月8日(火)	児童昇降口南のスペース (ピロティ)	しいたけ菌打ち体験 活動の補助 (電気ドリルでの穴あけ、菌うち)	6名
12	ちょボラ(ちょっとしたボランティアの略称)	随時(学校より依頼し、その期日が可能な時)	校内	学習補助、教材作成、 清掃補助、校内整備等	9名

※登下校の見守り隊については、別紙にてボランティアを募集します。

※読み語りは、今まで自主グループの方の活動でしたが、今年度から、地域学校協働本部の活動に入れます。活動方法については、今まで通りになります。(代表の方が中心になって進めます) また、活動計画は、ボランティアの方に渡します。

※ちょっとしたボランティア(ちょボラ)は、今年度から募集します。学校より、申し込まれた方に活動内容を依頼します。期日等、依頼内容が可能な時に活動していただくボランティアです。

※今回、参加申し込みしない方で、後日、参加できるようになり、参加希望がありましたらご連絡ください。途中からでも参加可能です。ただし、ボランティア保険の加入は、申し込みの約1か月後になります。(活動時期によっては加入ができません)

※昨年度と一昨年度の活動内容は、いずれも、本校のホームページ(トップページ)「地域学校共働本部」にて掲載してありますので、参考にしてください。

※活動内容が中止になったり、日時が変更したりすることがありますので、ご承知ください。そのときは、ボランティアの方に連絡します。

(1) 登下校見守り隊

- 1 日 時 4月30日(金)～3月24日(木)
- 2 活動場所 幸海地区と穂積地区の通学路
- 3 活動内容 登下校の見守り
- 4 協力者名 佐藤徳壽 様 柘植高治 様 曾我千代 様 柘植春奈 様
鬼頭久未子 様 鈴木明香 様 他1名 (7名)
- 5 活動の様子

昨年度から始めた登下校の見守り隊の活動を、今年度も引き続き行っている。幸海地区と穂積地区の通学路は、どちらも2kmほどあり、歩いて30分ほどかかる。そのため、通学路の行程を2つに分けて、見守り隊の募集を行ったところ、7名の方に応募していただいた。その中でも、幸海地区の佐藤徳壽様には全行程を、穂積地区の柘植高治様には2／3の行程を、毎朝、子どもたちに付き添って歩いていただいている。特に、佐藤様は今年度で16年目になり、とても長い間続けていただいている。他のボランティアの方には、それぞれ都合のつく曜日に下校時の見守り活動をしていただいている。



幸海地区の学校に近い通学路は道幅がとても狭く、車1台が通ることができる程度のところがある。その場所は2年前から道路拡張の工事を行っており、柵で仕切っている。児童は一列で歩き、車が通るときは止まって、通り過ぎるのを待っている。また、穂積地区の通学路も、学校に近いところで拡張工事を行っている。工事現場で働く方には、狭い道路を歩くときや道路を横断するときには、事故にあわないよう手助けを



していただいている。そして、保護者の方には、登校時や下校時に、家の近くで見守っていただいている。このように、子どもたちは多くの方に見守られているため、安全な登下校ができている。

登下校の見守り活動は交通安全だけでなく、不審者対応も含まれている。豊田市が発信する不審者情報の



メールは、毎日といってよいほど、各地で起こっている様子を伝えている。幸海小学校でも、警察署に協力を得て、毎年不審者対応の訓練をし、子どもたちに啓発活動を行っている。その意味でも、登下校の見守りは、大変ありがたい活動である。子どもたちが安全で、安心して登下校できるよう、これからも見守り隊の方を中心に活動していただけることを願っている。

(2) 読み語り

- 1 日 時 毎月1回(火曜日が基本) 8:30~8:45
- 2 活動場所 各教室
- 3 活動内容 各学年の児童への読み聞かせ
- 4 協力者名 近藤美那子 様 大村真由美 様 鬼頭久未子 様
篠田 木末 様 鈴木 由佳 様 柘植 春奈 様
友成 幸子 様 他1名 (8名)
- 5 活動の様子

昨年度まで自主グループの活動として、長年実施していた「読み語り」を、本年度から幸海小学校地域学校共働本部の活動として位置づけた。ボランティアの方の多くは本校の保護者であり、そのため、共働本部の活動とすることで、ボランティア保険の対象になるからである。

読み語りの担当者や担当学年は、代表の近藤様がメンバーの希望を聞いて決めている。一年間で全ての学年の読み語りができるよう配慮していただいている。また、学年が決まった担当者は、その学年にあった本を考え、ご自宅にある本棚、交流館や図書館などで準備していただいている。

4月13日(火)に6名の方に来ていただき、各学年に分かれ、第1回の読み語りを行った。本来ならば、子どもたちは絵本の近くで挿絵を見ながら、お話を聞くとところであるが、コロナ禍であるため、お互いに間隔をとった状態で、読み語りを行った。ボランティアの方はもう何度も読み語りを行ったり、読み語りの研修を受けたりしているので、体の横で本を開き、絵がよく見えるようにして読んでいる。また、子どもたちの反応を確かめながら読んでいる。読み語りが終わった後、ボランティアの方は会議室か図書館に集まり、振り返りをしている。一人ずつ、どんな本をどのように読んだかを皆の前で披露し、他の方々から感想を述べてもらっている。この話し合いが、ボランティアの方にとってとても有意義であり、次への意欲づけになっている。



緊急事態宣言が発令された関係で、5月と6月は中止になり、第2回は7月6日(火)に行った。この時は7名の方に来ていただいた。ボランティアの方は、子どもたちへの興味づけのため、低学年では大きな絵本で読んだり、紙芝居形式にしたりしている。

7月13日(火)に中央図書館主催の「読み聞かせボランティア基礎講座」が本校で開かれた。読み語りボランティア

4名が参加し、講師の方から、集団での読み聞かせの基礎、心構えや留意点、具体的な手順や本の選び方、読み聞かせを行うときの方法等、多岐にわたって話していただいた。講話の後、ボランティアの方は講師の先生の前で読み聞かせを行い、研修のまとめを行った。

子どもたちは、多くの本と接することによって、心も成長していく。学校では、その成長の糧となる読書を、多くの子どもたちが楽しめるようにと願い、日々の読書指導を行っている。それが、毎月の「読み語り」や、「図書の貸し出し」である。そして、子どもたちの読書意欲を高める役割を担っているのが、読み語りボランティアの方々である。今後も毎月一度、読み語りを行っていく予定である。



(3) 春のふるさと探し

- 1 日 時 4月30日(金) 9:00~14:00
- 2 活動場所 皆福寺、幸穂台グラウンド、津島神社
- 3 活動内容 住職さんのお話、ふれあいゲーム、草花の観察やスケッチ等
- 4 協力者 講師：石川 仁 様(皆福寺ご住職)
保護者ボランティア：曾我千代 様 他1名 (3名)
- 5 活動の様子

昨年度はコロナの関係で実施できなかったが、今年度は連休前の30日、2年ぶりに「春のふるさと探し」を実施した。4つのわくファミ班が、順に3か所の場所に訪れ、それぞれ活動した。

皆福寺訪問では、ご院さんにお寺の成り立ちや歴史、本堂や屋根にある彫刻の由来等を丁寧にお話していただいた。浄土真宗の寺院として、800年以上の歴史を持つ皆福寺は、以前、向かいにある山の上にあり、今から約200年前にこの地に建て替えはられたことや、お寺にある様々な彫刻には、それぞれ意味があることなどを、子どもたちが興味を持って聞けるよう、クイズ形式にして、わかりやすくお話していただいた。日頃、あまり考える機会がない仏教の世界であるが、「本堂の屋根にいるライオンは、その鳴き声によって皆が目覚まし、仏教の教えをしっかりと聞くことができるようになること」また、「入り口にいるバクは、悪い夢を食べてくれるので、皆が安心して暮らせること」そして、「お釈迦様が生まれた時は、甘い雨が降っていたが、その雨を降らしたのが竜であるので、お寺に竜がいること」等、子どもたちが身近に感じられるよう、話していただいた。また、「燭台が鶴と亀の形になっているのは、浄土の世界へ行くときに渡る三途の川で、ろうそくの灯が消えないよう鶴と亀が協力



をして渡ったこと」等、子どもたちは楽しく聞くことができた。その他、水屋や本堂の広さのこと、皆福寺の所有物として、600年ほど前の聖徳太子の掛け軸があり、いつもは市の郷土資料館に保管してあることや、壁に飾ってある涅槃図のことについても話ししていただいた。子どもたちは、祭壇に飾ってある道具や、飾りに関心があり、それについての質問が多くあったが、一つ一つ丁寧に答えていただいた。



幸穂台のグラウンドでは、ブランコや鬼ごっこをしたり、ドッジボールで遊んだりした。グラウンドは学校の運動場より広いため、思いっきり走り回って、体を動かすことができた。動き回った後は、木陰で休み、班の仲間とともに、お茶を飲んだり、談笑したりした。

津島神社では、笹舟を作り、水たまりに浮かべたり、草花をスケッチしたりした。また、昼食時に訪れた班は、お社の周りで弁当を食べた。厳かな雰囲気を感じ出して



いる神社では、グラウンドとは違い、大声を出したり、走り回ったりせず、それぞれが静かに活動した。

保護者ボランティア2名の方には、一日中、子どもたちと一緒に歩き、引率補助をしていただいた。特に、目的地までの行き帰りでは、自動車等の通行があり、そのたびごとに交通安全に気を配っていただいた。また、目的地では、児童の活動を見守っていただいた。おかげで、事故もなく、安全で楽しい活動を行うことができた。

活動終了後、それぞれの班は、体育館で振り返りを行った。全員が順に、今日のふるさと探しで気がついたことや、心に残ったことを発表した。どの班もリーダーを中心によくまとまっていた。

「春のふるさと探し」は、木々の新緑や鳥の声、川のせせらぎ等を、五感を使って感じながら、ふるさとである幸海地区の春を探し歩き、この地に生きる人々の生業を感じ取ると共に、地区への愛着を抱くことを願い、毎年行っている。そして、この活動は、学年ごとに行う「秋のふるさとウォーク」につながっていく。



(4) 図書館整備

- 1 日 時 7月8日(木) 13:30~15:00 (毎月1回 第2木曜日)
- 2 活動場所 図書館
- 3 活動内容
 - ・ 掲示物の作成と張替
 - ・ 古くなった本の整備
 - ・ 本を紹介するポップ等の作成
- 4 協力者名 坂田美津子 様 塩谷 尚美 様 鈴木 明香 様
他1名 (4名)
- 5 活動の様子

本校では、毎日2時間目と清掃後の長い放課になると、文化委員の当番が図書館を開館し、本の貸出し作業を行っている。また、木曜日の給食後は30分間開館し、この時は図書館司書と一緒に図書館業務を行っている。図書館が開いているときは、多くの児童が来館し、お気に入りの本を借りたり、借りていた本を返却したりしている。また、椅子に座って本を読んだり、友達と一緒に本を探したりする子もいる。特に、7/5(月)~7/16(金)の二週間、文化委員会が読書ビンゴを行っているため、図書館はとてもにぎわっている。



このように、子どもたちにとって、図書館は居心地の良い場所である。さらに、本を読むのが楽しくなる場所になることを願い、毎月1回、図書館整備ボランティアの方が来校し、図書館司書の原田さんと共に、館内の掲示物や本を紹介するポップを作ったりしている。また、古くなった本の表紙をきれいにしたり、整理したりしている。



今年度も緊急事態宣言が発令されたため、図書館整備ボランティアの活動は5月と6月が中止になり、7月8日(木)に第一回の活動を行った。ボランティアの方4名が来校し、全体会の後、早速、原田さんの指示で活動を始めた。用意してあった材料や道具を使って掲示物の作成を始めた。昨年もボランティアをしていた方も見えるため、手際よく下絵を描き、次々と掲示物を作っていた。出来上がった掲示物は、南側の窓に貼っていった。掲示物が貼られた図書館はとても華やかになった。

昨年度、高学年の児童に図書館のことを聞いた時、「季節ごとに掲示が変わり、きれいに飾りつけてある。」「図書館に節分の鬼や豆、雪の結晶などの掲示物が飾ってあるので、図書館がにぎやかだ。」「1階の6年生前の教室でも、本が借りられるようになり、とても便利になった。」等の感想があった。これらを見ても、ボランティアの方の活動は、子どもたちの読書意欲を高め、本に親しみをもって接する手助けとなっている。



(5) 田植え体験学習

- 1 日 時 5月25日(か) 9:00~10:30
- 2 活動場所 ネイチャーパークの田
- 3 活動内容 田植え体験
- 4 協力者名 講師：藤嶋健次 様 清水一雄 様 (2名)
- 5 活動の様子

5年生は社会科・総合の時間で米作りの学習を行っている。毎年、ネイチャーパークにある、約1.5m四方の田に苗を植え、その生長を観察したり、育った稲を収穫したりしながら、学習を進めている。また、植えた苗の生長がよくわかるようにバケツ稲を作り、教室横の空き地に置いて観察している。

藤嶋さんには、事前に畦を作ったり、代かきをしたりと、田植えの準備をしていただいた。当日は、藤嶋さんと清水さんに講師として田植えの手ほどきを受けた。田植えを行う前、藤嶋さんから植える苗の本数から、苗の持ち方や植え方、植える場所まで教えていただいた。けれど、子どもたちにとって、田植えは初めての体験なため、実際に田植えを行うと、様々なことがあった。まず、田の中はぬかるんでいるため、田に入ると足がとられ、動けなくなったり、転びそうになったりした。また、実際に植える時も、苗が根元までしっかり植わらなかったり、せっかく植えた苗を踏んでしまったりした。その時ごとに、藤嶋さんと清水さんに、手取り足取り支援をしていただきながら、何とか植えることができた。植え終わった後、子どもたちは満足そうな表情であった。



「田んぼに入った時、足が泥に埋まり動けなくなった。」

「田の中で動くとき、転びそうになってけれど、支えてくれたので転ばなかった。」

「自分たち植えた苗が稲になるのが楽しみだ。」

子どもたちは様々な思いをもって田植えの体験学習を行うことができた。



講師の先生には、この後、バケツ稲の栽培でも、学校園の雑草取りから土堀までやっていただき、バケツに苗植えができるように準備していただいた。そして、バケツ稲の栽培についての注意点を教えていただいた。これらを通して、子どもたちは米作りの実際を少しは理解することができた。今後、苗の成長を観察しながら、稲刈り、脱穀、精米と、稲作の学習をしていく。

(6) 栽培学習（3年 大根の種まき）

- 1 日 時 9月7日（火） 9：00～10：00
- 2 活動場所 学校前の道路下にある畑
- 3 活動内容 大根の種まき
- 4 協力者名 講師：藤嶋健次 様 清水一雄 様 （2名）
- 5 活動の様子

3年生は総合の時間で作物を栽培し、生長を観察することで、自然とのかかわりを深めている。今年度も大根の栽培に取り組んだ。大根の栽培は平成28年度から続けている。今年から地域講師の清水様が所有する畑で栽培を始めた。講師には、その清水様と、今まで行っていたいただいた藤嶋様の2名に依頼した。

当日、畑に行ったとき、とてもきれいにならしてあり、すぐに種まきができる状態であった。講師の方々が、事前に畑を耕し、畝を作ったり、雑草を抜いたりして、準備してくださったからである。また、肥料も施してあった。畑作業は、土づくりと言われているように、種をまいたり、苗を植えたりするまでの事前の作業がとても大切で、実際、これが後の収穫に大きな影響を及ぼす。子供たちの目に見えないところでのご努力に感謝している。

始めのあいさつの後、種のまき方を教えていただいた。子供たちは、畝にひいてある筋に沿って、手のひらの幅くらいの間を開けて、一粒ずつまいた後、種の大きさの3倍くらいに土がかぶるように、手で土をかぶせていった。その後、藤嶋様が加工した、もみ殻を敷き、上から鍬で土を抑えていった。最後に、水をたっぷりかけて種まきを終えた。子供たちは、一連の作業を慣れない手つきで行ったが、その都度、丁寧にアドバイスをいただいたり、手伝ったりしていただいたおかげで、無事に種まきを行うことができ、とても満足そうな表情であった。



芽が出るまでの一週間くらいは、毎日、水やりをしてください、とのことであったので、子供たちは、毎朝、教師とともに水やりを行っている。今後、時々畑に行って、大根の生長記録を書きながら観察していく予定である。



大根が育つまで5か月ほどかかるが、その間、間引きをしたり、雑草を抜いたりする手間を講師の方々がしてくださっている。講師の方々には作物がきちんと生長するように世話をしていただき、とても感謝している。

(7) 稲刈り体験学習

- 1 日 時 9月28日(火) 10:00~12:00
- 2 活動場所 ネイチャーパークの田
- 3 活動内容 稲刈り体験
- 4 協力者名 講師：藤嶋健次 様 清水一雄 様 (2名)
- 5 活動の様子

今年の夏は例年にない長雨があり、日照時間が減ったため、作物にとっては厳しい環境であった。それでも5月下旬に植えた苗は、4か月後に大きく生長し、黄金色の田になった。5年生は、軍手や長靴等で身支度し、稲刈りに備えた。

稲刈りを行う前、講師の先生から、稲の根元を持ち、鎌を手前に引いて刈ること、刈った稲は束ねてひもで結ぶこと、また、鎌で自分の身を傷つけないこと等の注意事項を話していただいた。この後、順に稲刈りを行った。

子供たちは初めての稲刈りであり、鎌を持つこともほとんどないため、最初は恐る恐る刈っていたが、講師の先生から励まされたり、鎌の使い方の手ほどきを受けたりしたおかげで、徐々に手際よく刈り取ることができるようになった。それでも刈っ



ているとき、足がぬかるみに取られ転びそうになったり、根がなかなか切れず、悪戦苦闘したりする姿も見られた。刈った稲はわら縄で束にしていった。しっかり縛らないと稲架かけするときに稲が抜けてしまうため、束の作り方も再度教えていただいた。気候変動のため、刈り取った稲は例年より粒が小さかったけれど、25束できた。

この後、バケツ稲の刈り取りを行った。鎌の使い方に慣れたため、バケツ稲の刈り取りはスムーズに行うことができた。バケツ稲は16束ほどできた。最後に使った道具を丁寧に洗い、後片づけをし、稲刈り体験学習を終えた。

刈り取った稲の束は、ワークスペースで稲架かけを行い、約2週間後に、脱穀を行う予定である。



(8) 脱穀体験学習 (5年生)

- 1 日 時 10月14日(木) 9:30~11:30
- 2 活動場所 児童玄関前広場(ピロティ)
- 3 活動内容 脱穀体験
- 4 協力者名 講師: 藤嶋健次 様 清水一雄 様
- 5 活動の様子

「米作り体験学習」の一環として、2週間前に刈り取った約40束の稲を、脱穀機にかけて粃にする活動を行った。脱穀機は、講師の清水様より貸していただいた。小型の足踏み脱穀機のため、児童にとっては、とても使いやすく、安全に作業をすることができるものである。活動前、ピロティにブルーシートを敷き、そこに脱穀機を据えた。その後、脱穀した粃が散らばらないよう脱穀機に覆いをかけ、この日まで、乾燥のために稲架掛けしておいた稲の束を運んできて、準備を終えた。

脱穀体験学習を行う前、講師の方から、脱穀機の扱い方や稲の束の持ち方、脱穀の仕方等を話していただいた。実際にペダルを足で踏むと、大きな音とともに、勢いよくドラムが回った。そこに稲の束を入れると、きれいに脱穀できた。この後、子供たちは順に脱穀を行った。

実際に試していただいた。ペダルを足で踏むと、大きな音とともに、勢いよくドラムが回った。そこに稲の束を入れると、きれいに脱穀できた。その様子を見ていた児童からは、歓声が上がり、すぐに始めたい様子であった。藤嶋様の補助を得て、子どもたちは、順に脱穀を行った。きれいに脱穀できる稲の束を見て、とても満足そうな表情であった。

脱穀は20分程で完了し、その後、粃を集めたり、稲の穂から取り切れなかった粃を手で取ったりした。後片付けをして、この日の活動を終えた。脱穀した粃は、この後、機械で精米する予定である。



(9) ① 秋のふるさとウォーク(1、2年生)

- 1 日 時 11月19日(金) 9:00~11:00
- 2 活動場所 祐源寺(徒歩)
- 3 活動内容 地域学習
- 4 協力者名 曾我千代 様 柘植佐代子 様 坂田美津子 様 他1名(4名)
- 5 活動の様子

秋も深まり、木々の葉がきれいに色づいたこの日、1、2年生14名は、保護者ボランティアとして引率補助をしていただいた4名の方とともに、地域のお寺「祐源寺」を訪問した。祐源寺は、昨年の秋のふるさとウォークで1、2年生が訪問し、今回で2度目である。祐源寺の本堂はとても広く、目の前に祭壇があり、その前に木魚や太鼓などの道具が置いてあった。また、天蓋が頭上にあり、その周りに五正色幕が飾ってあった。子供たちは緊張した面持ちで本堂に鎮座した。

今回は座禅の仕方を中心にお話していただいた。座禅を行うときは、まず壁に向かって合掌低頭し、そのあと、右回りに回って、壁を背にして合掌低頭すること。そしてまた、右回りに回って壁に向かって座禅を組み、瞑想することであった。子供たちは厳かな雰囲気の中、一言も発せず、静かに座禅を行った。座禅をしているとき、ご住職様は警策をもって回り、体がふらついている人の肩をたたいていた。10分ほどたった後、鐘を鳴らし、再び壁とその後ろに合掌低頭し、座禅を終えた。初めて座禅をする子がほとんどであったが、ご住職様の教えで、心が晴れやかになった。終わった後は、保護者ボランティアの方々も含め、すがすがしい表情であった。



座禅の後、子供たちは、お寺の中にある、多くの飾りについて質問をし、それを丁寧に答えていただいた。曹洞宗の寺院として、400年以上の歴史を持つ祐源寺は、その名が源頼朝に由来することや、大坂夏の陣で勝利した褒美として位をいただいたことも話していただいた。また、祭壇の前の天蓋や十王、鈴木正三のことも話していただいた。

お話の後、子供たちにジュースをふるまっていたことも、大変うれしかったようで、多くの子どもが、お礼の言葉として感想に書いた。こ

の後、境内や下の広場で、深まりゆく秋の風情を感じながら、楽しいひと時を過ごすことができた。

(9) ②秋のふるさとウォーク(1、2年生)

- 1 日 時 12月1日(水) 9:00~11:50
- 2 活動場所 王滝溪谷
- 3 活動内容 地域の散策
- 4 協力者名 曽我千代 様 柘植佐代子 様 坂田美津子 様 他2名 (5名)
- 5 活動の様子

前日の雨で、遊歩道の木々の葉は、濡れ落ち葉となり、道に広がっていた。それでも訪問者を歓迎するように、雨風に耐え忍んだ姿で、紅葉の名残を見せてくれていた。

この日、地域バス「ともえ号」を使って豊田市の名勝、王滝溪谷に行った。王滝溪谷の入り口でバスを降り、溪谷につながる道を進んでいった。風が冷たく、肌寒い日であった



が、川沿いの木々が防風林の役目となったり、木漏れ日の温かさが防寒具の代わりとなったりした。遊歩道を行きかう車はなかったが、周りの自然に気を取られ、列をはみ出して歩いてしまう子供たち。それでもボランティアの方たちに見守られながら、目的地の龍門園地に向かった。

龍門園地に到着後、始めに、「龍門橋」から「かじか橋」への散策路を歩いた。この散策路は、大人でも気をつけて歩かないといけなくらい、細くて急

な坂道であった。ボランティアの方は、子供たちの列の間に入り、足を滑らせないように補助をしながら歩いてくださった。橋の上から眺める川のせせらぎは、普段より水かさが増して勢いついていた。

龍門園地に戻った後、「秋の葉っぱ探し」を行った。赤や黄色の葉を見つけるたびに、木の葉の名前をボランティアの方に聞いたりして、ビニル袋に集めた。どの子も袋いっぱい、大小色とりどりの



の落ち葉を集めた。この後、鬼ごっこをしたり、お気に入りの場所を探したりと、自由時間を楽しんだ。水かさが多いため、川辺には行けなかったが、橋や散策路から岩場の間を流れている川を眺めたり、水音を聞いたり、溪谷の様子を実感したりした。ここでもボランティアの方には、湿った道に足を取られたりしないよう、走り回る子たちに声をかけるなど、安全面に気を遣いながら、活動を見守っていただいた。

子供たちは、学校の近くにある自然あふれた溪谷を時間いっぱい満喫し、帰途に就いた。

(9) ③秋のふるさとウォーク(3年生)

- 1 日 時 11月26日(金) 9:00~11:30
- 2 活動場所 鬼頭邸(徒歩)
- 3 活動内容 地域学習
- 4 協力者名 鬼頭和弘 様 鬼頭友子 様 (2名)
- 5 活動の様子

鬼頭邸にはムクノキがある。鬼頭様には、この木の前で出迎えていただき、ムクノキにかかわるお話から、今回の訪問が始まった。ムクノキは樹齢が400年余りで、当家のシンボルであり、豊田市の銘木に指定されていることや、名木であるために、木の管理が大変で、10年ごとにクレーン車を使って剪定を行っていること等を話していただいた。その後、家の中で家系図を見ながら、古から続いている鬼頭邸のお話をしていただくとともに、昔の人々の生活について話していただいた。



まず始めに、三河湾でつくった塩を塩尻まで運ぶために塩の道ができ、鬼頭邸の前の道を通って、60kgある塩の俵を3俵積んで馬が運んだことや、運ぶ人は当時、旅館であった鬼頭邸に泊まったことなど、歴史の積み重ねを話していただいた。次に、昔の人々の生活の様子で、江戸時代では髪型でちょんまげがあったことや、履物や布団はわらで作っていたこと、また、昔の着物のことや、鬼頭家には護身の槍があったこと等を話していただいた。



ちょんまげは、武士の絵を見てイメージを描き、履物では草鞋や藁草履を用意していただき、それを実際に履いて、感触を確かめた。そして、わら布団のお話の時は、むしろを敷いていただき、昔の着物を着て寝てみたり、本物の槍を見せていただいたりした。子供たちにとっては自分が生まれる前のことであるが、具体物を使ってのお話であったため、当時の様子を思い浮かべながら、とても興味をもって聞くことができた。

お話の後、茶室に招かれ、奥様から、お茶をたていただく時には、「お先に」と言っていたこと等、お茶の作法を教えていただいた。その後、実際にお抹茶とお菓子をおいしくいただいた。

3年生が毎年行っている鬼頭邸訪問は、今年で13年目になる。鬼頭様には、毎回、趣向を凝らして、お話していただいている。今回は、鬼頭邸に保管されている多くの具体物を使って、イメージを描きやすいようにお話していただいた。子供たちは感謝の心を込めてお礼をし、鬼頭邸を後にした。



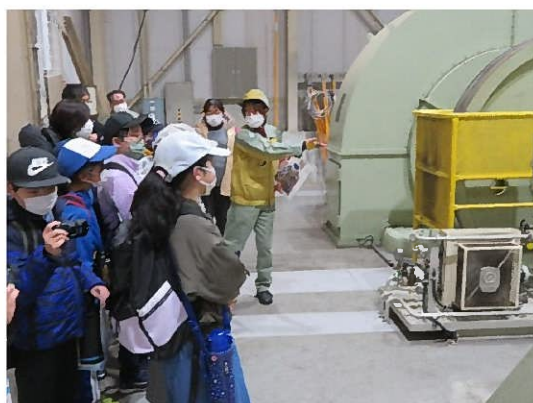
(9) ④秋のふるさとウォーク(4年生)

- 1 日 時 令和4年2月1日(月) 9:00~11:00
- 2 活動場所 白瀬水力発電所(徒歩)
- 3 活動内容 水力発電所見学
- 4 協力者名 中部電力 愛知水力センター 水力発電所所員 様
- 5 活動の様子

4年生は水の学習の発展として、水力発電所のことを学んでいる。学校から、歩いて30分程のところに中部電力の白瀬水力発電所があるため、毎年ここを見学している。

白瀬水力発電所では、所員の方からパネルを使って分かりやすく発電所の仕組み等を説明していただいた。子供たちは学校の近くに発電所があることや、発電所がどのように稼働しているかを初めて知ることができた。また、普段何気なく使っている電気がどのように作られているかを知ることによって、電気に関心を持つとともに、電気を大切に使い、いきたいという思いを抱くこともできた。

白瀬水力発電所は、大正9年にでき、現在まで、約100年にわたって稼働していることから始まり、巴川から引いた水を水槽にため、高さ27メートルから落としてタービンを回して発電していることや、タービンは毎分500回転すること、そして、発電した電気は70000ボルトになるが、変圧器で100ボルトにして各家庭に送っていることを話していただいた。また、この電気は、全部で2800軒分になり、その内、幸海町など5つの町には約1000軒分、残りは豊田市の方に送っていることも教えていただいた。説明の後、実際にタービンが回っている場所へ移動し、その様子を見せていただいた。今は点検中でタービンは回っていなかったが、カタツムリのような大きなタービンを見て、とても驚いていた。子供たちは説明を聞きながら、思ったことや感じたことをたくさん質問したが、一つ一つ丁寧に答えてくださり、発電の仕組みや発電所の様子を知ることができた。



この後、外に出て、大きなパイプが引いてある場所を見ながら、所員の方からの説明と子供たちも質問の答えから、発電所がどのようにできているかを確認することができた。

見学後、子供たちが発表した感想を、講師の方は頷きながら聞いてくださった。今回の訪問では、所員の方とのやり取りが多くあり、子供たちはとても満足した様子であった。

(9) ⑤秋のふるさとウォーク(5年生)

- 1 日 時 令和4年1月12日(水) 9:00~12:20
- 2 活動場所 あおい電子工業 穂積製糸工場跡(徒歩)
- 3 活動内容 あおい電子工業と穂積製糸工場跡の見学
- 4 協力者名 あおい電子工業株式会社社長 木戸泰彦 様
穂積製糸工場跡保存会会長 村山 勝 様
- 5 活動の様子

5年生はキャリア教育の一環として、学区にある今と昔の働く場所を訪ねた。初めに訪れたところは、「あおい電子工業株式会社」である。この工場は、昭和42年に設立されてから、今年で54年目になる。ここでは社長の木戸様からお話を伺った。

設立当時は、ATMや自動販売機に関する製品を作っていたが、東南アジア諸国の安価な製品が使われるようになったため、電子基板や、センサ、アクチュエータの製品を作るようになったとのことであった。木戸様はさらっと話されたが、方針の転換には、とても多くの苦労があり、その苦労が今の製品づくりに生かされていると感じた。

センサは目・鼻・口・耳・皮膚、基板は頭脳、アクチュエータは筋肉であるため、これらの製品は常に輝きをもち、決して壊れてはいけないという信念の下、製品づくりをしていた。1500度を超える溶鉱炉が稼働する鉄鋼業界や、重量のある自動車を支え高速で動くタイヤ業界、また、細かい作業のあるコンバーティング業界やダムで水門を開け閉めする水門業界、その他、業務用刺しゅう機等、幅広い業種に使われているセンサは、暑さ寒さに耐え、過酷な環境でも絶対壊れない品質であった。そのセンサを動かす基板やケーブルも同様に高品質だからこそ、これらの製品は世界各地で使われており、多大な信頼を得ているとのことであった。



お話の後、従業員の方が働いているところを見学した。基板に、溶かしたハンダを手作業で器用につけているところ、機械が自動でハンダ付けをしているところ、また、自動車部品を丁寧に扱って作業をしている様子等、熟練の技を見ることができた。

最後にまとめとして、子供たちからの質問に答えていただくと同時に、社長としての経営方針も伺うことができた。「ものづく

りは人間が行うため、働く環境を整え、作る人を大事にすることが大切であること。」「仕事をしていて上手にならないからやめてしまうのではなく、努力を続けることによって急

にできるようになる日が来ること。」等、子供たちの毎日の学校生活にも当てはまるお話であった。このような社長さんの信念があるからこそ、世界と対峙する会社になったのだと感じた。

あおい電子工業の名称は、松平発祥の徳川家の御紋「葵」からとっており、地元を代表する企業であり、働く人は地元の方が多くみえる。このように地元根差した会社が、これからも発展することを願いながら訪問を終えた。

次に訪れた穂積製糸工場跡の見学では、講師の村山様から資料をいただき、それを基に、工場跡のことを分かりやすく話していただいた。

明治32年、当時の輸出の花形であった製糸産業は松平地区にはなかったため、鈴木喜太郎氏が、畑であったこの地に工場を作り、座繰り器械を導入して16名で開業した。そして、多くの努力を重ねるとともに、卓越した経営方針により、発展していったとのことであった。その後、手作業から機械化し、動力も蒸気機関を活用するなど発展を重ね、施設も拡大し、120名もの人が働く大きな工場になったことを話していただいた。また、当時、人々は小さな田や畑で農作業をしながら細々と暮らしていたが、この工場のおかげで、地域に働く場所ができたこと。そして、桑を育てたり、蚕を飼ったりして生糸の原料となる繭を作り、それを工場に納入したことなど、製糸工場にまつわる様々な出来事も話していただいた。そして何より、この工場ができたため、人々は現金収入を得ることができ、家計が楽になり、豊かな生活を手に入れることができたこと等、地元大きな利益を与えてくれたことを強調された。工場は大正9年にアメリカとの取引が中断し、生糸の価格が暴落したため、閉鎖されてしまったが、地域の人々は、この工場に感謝して、記念碑を作ったとのことであった。



子供たちは、先に見学した「あおい電子工業」と同様に、「穂積製糸工場」が世界と対峙していた先端の工場であり、それがこの地にあったことを感心しながら、村山様のお話を聞くことができた。

この後、丘に上がる石段を昇ったり、巴川からポンプで汲み上げた水をためる水槽跡を見たりした。今では記念碑がなければ、この地に工場があったことはわからないが、当時の様子を思い浮かべながら、見学することができた。

(9) ⑥秋のふるさとウォーク(6年生)

- 1 日 時 11月29日(月) 8:45~12:00
- 2 活動場所 松平東照宮 高月院
- 3 活動内容 地域の歴史探索
- 4 活動の様子

歴史を学んでいる6年生は、毎年地域の旧跡を訪れ、その薫りを実感している。今年度は、松平東照宮や高月院で名高い、松平郷を訪問した。松平郷を訪れる際、松平郷ふるさとづくり委員会事務長である加藤様到大変お世話になった。

地域バスともえ号で、松平郷の駐車場まで行き、そこで、加藤様から案内図をもとに、松平郷の説明を受けた。東照宮、高月院、展望台等、多くの見所があり、それぞれ歴史を刻んでいることを話していただいた。

初めに訪れた松平東照宮では、宮司様から松平東照宮の成り立ちや歴史を話していただくとともに、産湯の井戸、松平初代親氏公の像を案内していただいた。



徳川家康の始祖である初

代松平太郎左衛門親氏公がこの地に若宮八幡を勧請し、松平家の屋敷神であったことや、その後、家康と親氏公を合祀し、現在の東照宮になったこと等を話していただいた。また、拝殿の天井には、松平郷の自然を写す108枚の色鮮やかな草花の漆絵があり、漆芸家、安藤則義さんが2015年に描かれたものであることも話していただいた。



子供たちは宮司さんのお話を聞き、東照宮の歴史を感じるとともに、東照宮の周りにおるお濠は、松平家のお屋敷であったため、神社でありながら現在も残っていることに感心していた。また、拝殿の天井画を見て、その美しさに見入っていた。

この後、産湯の井戸や親氏公の像を見てまわった。その中でも、産湯の井戸は、男の子が生まれたときに井戸の水を分け与えることや、前小泉環境大臣にお子さんが誕生したときに、この水を贈ったこと等、とても印象的なお話をしていただいた。宮司さんにお礼のあいさつをした後、次の訪問地、高月院に向かった。

高月院では、ご住職様に、高月院の成り立ちや歴史を話していただくとともに、座禅の作法等を教えていただいた。高月院は今から約650年前、松平親氏公が本尊阿弥陀像を寄進し、堂や塔を建立してから、この名になり、松平氏の菩提寺となったことを、系譜を見ながら話していただいた。そして、37代目のご住職として、現在に至っていることも



教えていただいた。この後も多くのお話をしていただいたが、その中でも、徳川家の象徴である、葵の紋についてのお話は、とても興味深く聞くことができた。子供たちに配っていた葵の紋の葉の数を数えたところ、紋によってその数が違っていた。その理由は、同じ徳川でも、本家である徳川家は13枚、尾張家は17枚というように、家によって葉の数が違うからであった。ちなみに、高月院は23枚とのことであった。

お話の後、本堂に移り、座禅の体験活動を行った。座禅は、日々の行いを反省し、皆が仲良



く暮らし、誰もが幸せになるために行うものであること。また、座禅は、何のために生まれてきたかを考えながら、約40分間行うことなどを話していただいた。この後、時間の関係もあり、子供たちは5分間座禅を行い、瞑想に耽った。最後に訪問した松平郷館では、時間が限られた中、加藤様に、松平家にかかわる展示物について、一つ一つ丁寧に説明していただいた。松平郷訪問のまとめとして、子供たちに印象づけられた資料館であ

った。

紅葉の美しさにマッチした東照宮や、深まりゆく秋の風情を楽しみながら向かう高月院の道程に加え、宮司様やご住職様、加藤様の松平郷を支えてみえる方々の慈愛に満ちたお話等、子供たちにとって忘れがたい日となった。

(10) しいたけ菌打ち体験学習

- 1 日 時 3月9日(水) 10:00~12:00
- 2 活動場所 幸海小学校児童昇降口南のスペース(ピロティー)
- 3 活動内容 原木への穴あけと菌打ち体験
- 4 協力者名 森林組合指導員 : 成瀬 秀人 様 原田 勝行 様
職員 : 奥谷 様 加藤 様 阪野 様
地域講師 : 村山 勝 様 坂田一三夫 様
: 梶本太四郎 様 柘植道 広 様
校内整備員 : 鈴木 正 様 中根 光男 様
- 5 準 備 森林組合: 原木30本 しいたけの菌一瓶 電気ドリル4本 目盛り棒
学校 : ブルーシート3枚 金槌10本 リール2個 軍手
- 6 活動の様子

今年度で5年目になる「しいたけ菌打ち体験学習」は、毎年4年生が行っている。今年度は新型コロナウイルス感染の拡大を受け、学年末のこの時期に行った。森林組合の協力で、原木、菌、目盛り棒、電気ドリルを用意していただいた。4年生は2つのグループに分かれて活動を行ったが、講師の方が11名みえたため、指導者とマンツーマンで作業を行うことができた。

はじめの会では、校長先生の挨拶に続き、森林組合の成瀬様と地域講師の村山様からお話を伺った。また、成瀬様から菌打ちの手順を分かりやすく説明していただいた。初めに原木の切り口にチョークで線を引き、その線の端から目盛り棒を使って原木に穴をあける目印をつけていくこと。次に、その目印に電気ドリルで穴をあけること。そして、あいた穴に菌のコマを金槌でしっかり打ち込むことを、実際に作業しながら具体的に話していただいた。また、電気ドリルは両手で持って使用し、



穴をあけたらすぐにスイッチを切り、ドリルの回転が止まってから横にして下に置くこと等、安全な使用法も教えていただいた。

作業は手順通り、まず、目盛り棒を使って原木に印をつけることから始まった。1本の原木に、約30か所の印をつけ、その印に電気ドリルで穴をあけていった。電気ドリルを使っ



ての穴あけは、子供たちは初めてなので、最初は恐る恐る行っていたが、すぐに慣れて、てきぱきとできるようになった。これも、ドリルは両手で持って使うことや、原木をしっかり押さえ、安全面に気をつけて穴をあけていくことを指導していただいたからである。おかげで、誰もけがをすることなく、穴あけ作業ができた。次の菌打ちでは、菌の入ったコマを原木に垂直に置き、コマの頭が隠れるくらいに打ち込んだ。

大事なポイントをわかりやすく教えていただいたおかげで、菌打ち作業をスムーズに終わることができた。

子供たちは、「はじめは電気ドリルをまっすぐにするのが難しかったけれど、慣れてくると早く打てるようになりました。」「菌打ちをするとき、しっかり入っていないところを教えてくださいました。」「5年生の秋に食べら



れると聞いて、うれしくなりました。」等の感想を述べていた。これも講師の方の熱心なご指導があったからこそ、「しいたけ菌打ち体験学習」が、充実した活動になったといえる。

森林組合の方をはじめや講師の皆様には、朝早くからの準備や活動の指導、活動後の後片付けまで、多くのご協力していただいたことを厚く御礼申し上げます。



(11) ちょボラ活動

- 1 日 時 第1回 7月 5日(月) 7日(水) 12日(月) 16日(金)
第2回 10月15日(金) 19日(火) 27日(水)
11月24日(水) 30日(火) 12月8日(水) 14日(火)
第3回 3月10日(木)
- 2 活動場所 会議室他
- 3 活動内容
 - ・階段に貼る英語の掲示物作成
 - ・学校ボランティア紹介ボードの作成
 - ・学級文庫にある本の廃棄作業
- 4 協力者名 曾我千代 様 坂田美津子 様 柘植佐代子 様 鬼頭久未子 様
鈴木明香 様 他4名 (計9名)
- 5 活動の様子

今年度から始めたちょボラ活動は、階段に貼る英語の掲示物作と学校ボランティア紹介ボードの作成、図書書の廃棄作業を行った。

英語の掲示物作成では、印刷してある英単語とその日本語訳を、両方の大きさが合うように切ることから始めた。英単語にはその発音をカタカナで下にした。日本語訳はフリガナをつけ、その横に挿絵を載せた。このようにしたこと低学年の児童にもよくわかるようになった。その後、大きさをそろえるために長さを定規で測り、印刷物に印をつけ、手動カッターで切っていた。切り取った印刷物はラミネートフィルム



に入れ、専用の機器(ラミネーター)でしっかりした掲示物にした。出来上がった掲示物の裏に両面テープをつけ、校舎の階段に貼ったが、湿気が多い雨天の日、剥がれてしまった。そのため、掲示物の裏につける両面テープを大きめのものに変え、改めて階段に貼ったところ、それ以後は剥がれることはなくなった。

紹介ボードの作成は、初めに「良い環境が良い子を育てる」というタイトルを発泡スチロールで制作した。まず、発泡スチロールにタイトルの文字を平仮名で下書きし、その後、熱線カッターで切り取った。切り取った文字の裏に両面テープをつけ、台紙に貼っていった。次に、各ボランティアを紹介する掲示物を作成した。ボランティア名と主な活動の説明文、活動の様子がわかる写真を組み合わせた掲示物である。この後、ボランティアの方の写真を作成した。写真の下にはひらがなで名前を載せ、誰がどの



ボランティアを行っているか分かるようにした。掲示物、写真はラミネートをかけ、両面テープや磁石でボードに貼った。最後に、ボードの周りに飾る蔓や葉を作成した。下絵を作成し、カッターナイフで切り取ることは、とても根気のいる作業であった。

図書の廃棄は、各教室にある学級文庫で、古くなった本や必要なくなった本を紐で縛り、所定の場所に運ぶ作業である。今までは各担任がしていたことを、ボランティアの方で行ったため、少しは教師の手助けになったと思っている。

今まで行った活動の中で、英語の掲示物と紹介ボードの作成では、多くの細かい作業があり、大変な苦勞があったが、参加していただいたボランティアの方は、とても熱心で、丁寧な取り組みをしていただいた。また、何度も来校し、細かいところまで配慮して作成していただいた。

どの活動も、ボランティアの方はとても協力的で、率先して作業をしていただいた。この場を借りて感謝申し上げたい。



出来上がった英語の掲示物と紹介ボード

4 おわりに

5年目を迎える地域学校共働本部の活動は、昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、年度の途中で緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置が発令されたり、解除されたりするたびに日程が変更になった。それでも昨年のように休校になることはなかったので、4月当初から紙面でボランティアの募集や連絡を行うことができた。

今年度から地域学校共働本部の活動となった「読み語り」は、4月、7月、10月、11月、12月、1月の6回行い、他の月は中止になった。それでも読み語りボランティアの方には、本選から練習まで、事前の準備をして読み語りをしていただいた。また、「ちょボラ」は、第1回が4日間、第2回が7日間、第3回が1日と、計12回行った。ボランティアの方には、何度も足を運んでいただき、学校の環境整備に協力していただいた。「写真撮影」は、運動会と縄跳び・焼き芋大会の2回行った。いずれも半日の間、精力的に取り組んでいただいた。

昨年度から継続して取り組んでいる活動の中で、「登下校見守り」は、お二人の方が毎朝、児童とともに歩き、登校指導をしてくださった。また、6名の方には下校の



見守りをしていただいた。いずれも年間を通しての活動であるため、その多大な尽力に敬意を表する。「図書館整備」も月1回の活動であるが、7月、10月、11月、12月、1月の5回行った。季節にあった掲示物を作成したり、図書の整備を行ったりしていただいたため、図書館が華やかになり、児童が楽しんで読書に親むことができた。その他、地域とふれ合う「春のふるさと探し」「秋のふるさとウォーク」では、ボランティアの方に、児童の引率補助や、現地

での安全指導をしていただいた。「栽培活動」では、講師の藤島様、清水様には大根の種まきや稲の田植～収穫まで長期にわたり、熱心にご指導いただいた。おかげで、児童は収穫の喜びを味わうことができた。また、「しいたけ菌打ち体験学習」では、豊田森林組合の方や、地域講師の方に今年も準備や指導していただいた。



どの活動もボランティアや講師として協力していただいた方の熱心さに頭が下がる思いで、教職員一同とても感謝するとともに、心よりお礼申し上げます。また、ボランティアの方や講師の方へは、児童がお礼の手紙を書き、お渡しした。

次年度も、ボランティア活動の実施や学校行事等への参加依頼を継続したいと考えている。